

作新学院大学 ティーチング・ポートフォリオ

所属	氏名	作成日
人間文化学部発達教育学科	高柳 秀史	2024年5月1日

【責務】(何をおこなっているのか/担当授業科目その他)

【前期】

基礎ゼミナールⅠ 1学部 2学科
数学 2学部 4学科
統計学Ⅰ 2学部 4学科
日本事情 A 2学部 4学科
統計学特論 Ⅰ 研究科
経営学特別演習Ⅰ Ⅰ 研究科
経営学特別演習Ⅲ Ⅰ 研究科
科学的方法論特殊研究Ⅰ Ⅰ 研究科
研究指導 Ⅰ 研究科

【後期】

統計学2 2学部 4学科
日本事情 B 2学部 4学科
小学校算数 Ⅰ 学部 Ⅰ 学科
統計処理入門 Ⅰ 学部 2学科
経営学特別演習Ⅱ Ⅰ 研究科
経営学特別演習Ⅳ Ⅰ 研究科
科学的方法論特殊研究Ⅱ Ⅰ 研究科
研究指導 Ⅰ 研究科

【理念】(どのような考えに基づいて行っているか)

心の自由を得て、物事を自由な視点で捉えられるような柔軟さを身につけて欲しいと思います。

【方法】(その考えをどうやって実現しているか)

【責務】に記した授業のうち、「統計学Ⅰ,Ⅱ」および「統計処理入門」は、遠隔形式と対面形式の授業を、各人の判断で選択できるようにしています:WebClass 上の教材を見て、自分で問題が解けると思えば遠隔形式を選択し、詳しい説明が聞きたいと思えば対面の授業に出席するようにしています。

また、「数学」では、人によって理解度の差がかなりあるので、問題の難易度を3段階に分けて、各自の好みに合わせて受講できるようにしています。

その他の科目は、対面で行なっているので、受講者の理解の様子を見ながら授業内容を微調整しています。

「基礎ゼミナール」「日本事情 A, B」を除いて共通して言えることは、科目の性質上、基礎学力、計算力があってこそその自由さだと思います。従って、とにかく自分の力で問題を解くことを主眼にしています。

【成果】(その方法を行った結果、どうなったか、どうだったか。自身の感想・具体的な成果物・学生からのコメントなど)

楽しそうに問題を解いている姿や、「終わりにしても良い」と言っても諦めず、粘り強く問題を解いている姿は、成果というよりむしろ、自分自身が見習わなくてはならない点だと思います。

大学院生(博士後期課程)に関しては、「勉強すればするほど、自分が勉強しなければならないことが増えていく」という言葉を聞いて、これ以上私が教えることは何もないと思うくらい成長したと感じました。

【目標】(今後どうするか)

勉強すること、特に「数学」は、過去の小・中・高のことは忘れて、楽しいものであると感じ取って欲しいです。

過去の小・中・高、特に、小学校時代の算数に躓いた学生の助けになれるよう努力したいです。